

2011年度 中学入試

学校情報FLASH!!

CHAPTER. 5

(2010. 4. 28)

成基コミュニティ 学校情報室

……………目次……………

◆中学入試基礎知識①

- ・私立 …… 私立中学校の特性、調べ方について
- ・国立 …… 国立中学校の特性について
- ・公立 …… 公立中高一貫校の特性について

……………

中学入試 基礎知識①

中学入試の基礎知識を数回にわたってお伝えします（発信時期は不定期です）。今回は、「中学校の種類・タイプ」としまして、「私立」「国立」「公立」それぞれの特性をお伝えします。

はじめに

一口に中学入試といっても、受験する中学校には様々な種類が存在します。今回は、基礎知識のPart. 1として中学校の種類・タイプについて解説いたします。まず中学校の種類は3つに大別されます。

1つ目は私立中学校です。いわゆる『中学入試』と言えば一般的には私立中学の入試を指します。中学校数は非常に多く、近畿圏だけでも京都：25校・大阪：65校・兵庫：34校、奈良：11校、滋賀：5校が設置されています。

2つ目が国立中学校です。これは国立大学の教育系の学部・学科に附属して設置された中学校のことです。京都：2校、大阪：3校、奈良：2校、兵庫：2校、滋賀：1校と近畿圏に合計10校あります。

3つ目がここ近年で開校が盛んになっている公立の中高一貫校です。2003年から2004年にかけて近畿でも開校し注目を集めました。地域で二番手グループに位置づけられる公立高校が併設の中学校を新設するというパターンが多くなっています。

それでは、この3種類に関して詳しく解説いたします。

①私立

私立の最大の特徴は「個性」の豊かさにあります。設立の経緯や建学の精神、教育方針、学習環境が学校ごとに全て異なります。私立を志望する場合は、その学校の持つ独自の雰囲気（＝校風）を熟知した上で学校を選択することが大切になります。

では、学校の特性を示す要素のうち、主なものを挙げてみます。

(1) 区分・・・男子校・女子校・共学校

男子校・女子校は公立とは違う私立の存在意義でもありましたが、近年では男女平等参画・雇用機会均等などの社会情勢の変化や生徒募集の難しさから男子校・女子校が共学化する例が相次いでいます。さらに、進学校がもう一段階レベルアップする目的で共学化する例もあり、徐々に共学校の比率が増えています。ただし、共学化によって募集に成功した学校もあれば、そうでない学校もあります。

府県ごとの各区分の校数は以下の表の通りです。

2010年春	兵庫	大阪	京都	奈良	滋賀	和歌山
男子校	8	6	2	2※	0	0
女子校	15	17	8	1	0	1
共学校	11	42	15	8	5	5

※西大和学園は中学：男子校、高校：共学校

また、特殊な区分として、「併学」があります。これは、学校行事は男女一緒に参加しますが普通の授業・クラスは男女別に分かれている学校のことです。関西では奈良の**帝塚山**と大阪の**常翔啓光学園**がそれに当たります。

(2) タイプ・・・進学校・大学附属校

学校には様々なタイプが存在しますが、ここでは代表的な2つのタイプを紹介します。

A. 進学校

(灘・東大寺学園・洛南高校附属・西大和学園・洛星・大阪桐蔭・四天王寺など)

ここで言う「進学校」とは、難関・有名大学への進学を目指したカリキュラム・学習体制が組まれている学校のこととします。多くの学校が中高一貫教育の利点を生かして、英語・数学などの基幹教科の時間数を増強したり、単元の重複を避けたり先取り授業を行うことにより、多くの時間を大学の受験準備にあてています。その成果とも言える大学合格実績を学校間で比較する際には、①国公立医学部医学科、②東大・京大・阪大・神大（いわゆる4大）合計、③国公立合計、④最難関私立（関西ではいわゆる関関同立）などの括りで見ると、学校の進学体制の結果が見やすくなります。

B. 大学附属校（同志社大学・立命館大学・関西大学・関西学院大学系列など）

ここで言う大学附属校とは、私立大学の併設校として進学に有利な条件が与えられている学校とします。また、大学と同じ学校法人が運営する附属校のほか、学校名に大学名を冠しつつも別法人が運営する連携校（「系属校」など大学によって呼称は様々）や、大学への推薦を謳ったコースを設置する提携校など新たな形態も登場してきています。さらに、併設大学への推薦を保留した上で、難関国公立を目指す学校もあり、附属校といっても一言で言い表せないほど多様になってきています。

(3) 宗教・・・仏教系・ミッション系 etc.

私立には宗教の諸団体が設立に携わった学校が数多くあります。たとえば、海外に本拠地を置くカトリック修道会や日本の寺社仏閣などです。当然、こういった学校は教育方針に宗教の精神を取り入れており、また校長（または学園長）が宗教関係者（神父・シスター・僧籍など）という場合もあります。そして、宗教に関する授業や行事が重要な道德教育の基盤となっている学校が多くあります。ただし、在籍生徒に占める信者の割合は少なく、1割に満たない場合が一般的です。

なお、以下に「※成基学校ナビでご確認ください」と記載している項目に関しては、成基コミュニティグループホームページ上の学校検索サイト「学校ナビ」でご確認ください。「成基学校ナビ」URL：<http://info.seiki.jp/navi/search/index.php>

(4) 大学合格実績

学校を選択する重要な要素に大学合格実績があります。その学校によって国公立大合格が多いのか、私大合格が多いのかで違いがあります。また、私大合格者が多い場合でも関関同立とそれ以外の大学では意味合いが異なります。さらに、国公立大合格が多い場合でも、近畿圏の大学なのか、地方の大学なのか等で学校選択は変わってくるはずで

す。また、関西では東大・京大・阪大・神大（いわゆる4大）の合格実績数を比較して見ることが多いです。あと忘れてはならないのが、文系・理系の差です。特に、医歯薬系学部は難易度も高く、中でも医学部医学科は、たとえ地方大学でも東大・京大と同等のランクに位置付けられる学校も数多くあります。

※大学合格実績は、成基学校ナビや進学フェアでお配りするデータブック（小5・小6受験コースは全員配布）でご確認ください。

(5) 高校募集

中高一貫教育と言っても、学校として高校募集を実施しているかどうかは様々です。高校募集のパターンとしては大きく4つに分けられます。

- ① 高校募集を実施していて、中学からの生徒と高校からの生徒が高校クラスで混在するパターン（**花園**・**大阪青凌**など）。
この種の学校は中学入試では募集人員が少なく（2クラス程度）、難易度も高くない場合が多い。
- ② 高校募集を実施しているが、高校入学生と中学入学生とは完全に別クラスのパターン（**洛南高附**・**京産大附属**・**聖母学院**など）。
私立の中では最も多い。例外として洛南は、高校から学力の高い生徒は志望に応じて若干名中学入学生と同クラスになる。志望大学別のクラス編成を組む場合（受験学年のみ等）だけ混合する学校もある。
- ③ 高校募集を実施しない、完全中高一貫のパターン（**洛星**・**金蘭千里**・**大谷**（大阪））。
かつては高校募集を実施していたが中学入学生と高校入学生との学習進度のギャップが大きすぎる等の理由で募集停止した、という場合もある。**洛星**のように稀なケースで欠員補充に若干名だけの高校募集を行う学校もある。
- ④ 最後のパターンが、中学校と高校が一体となった「中等教育学校」（**大阪学芸**など）。当然、高校募集は無い。中学校・高校が一体なので、学年の呼称も1年から6年まで。

(6) 設備

私立には様々な設備を持った学校が数多くあります。

広大な芝生グラウンド、全天候型の温水プール、整った野球グラウンド、蔵書数豊かな図書室、複数の理科専門教室、最新のコンピュータールームといった具合に、挙げればキリがないほど。中には複数台のスクールバスを運行している学校もあります。宗教校では校地内にチャペルもしくは小聖堂などがあり、道徳指導に使用されています。

※各学校の設備については成基学校ナビでご確認ください。

(7) 行事

学校には大小さまざまな行事が存在しますが、その一つ一つがその学校の特色を色濃く表現していると言っても過言ではありません。大規模校の勇壮な体育祭は見応え充分のイベントですし、ミッション系のクリスマスイベントも伝統に裏打ちされた内容と言えます。文化鑑賞や宿泊学習など学校の目標に合わせて工夫された行事が実施されています。

※学校行事の日程は、成基学校ナビやデータブック、この学校情報 FLASH でのお知らせ、各学校ホームページでご確認ください。

(8) 学費

前述したような学校の特色・教育環境を整えるために私立の学費は高く設定されています。しかし、子どもの将来を形成する先行投資という面がクローズアップされれば一概に高いとは言えません。

※成基学校ナビやデータブック、4/14 発信の学校情報 FLASH でご確認ください。

(9) 入試制度

これら様々な魅力を持つ私立中学に入学するためには、入試に合格する必要があります。近年の中学入試では、専願・併願の違い、入試に必要な科目数など、年々入試制度が複雑化、かつ多様化してきています。その代表とも言える自己推薦型の入試制度では、小6時の学力だけでなく小5・小6の小学校内申を必要としますので注意が必要です。

※入試制度についての詳細は別の回で取り扱う予定です。

(10) 偏差値

志望校合格において入試制度とともに重要な点に、学校の難易度を表す偏差値があります。しかし、偏差値というのは元になる集団（母集団）の中での位置づけを表す数値ですので、異なる集団で受けたテストでの偏差値に差があるのが当然です。

学校選択の際に偏差値のみ気にするのではなく、むしろ『偏差値は目安の一つ』と割り切って、子どもの個性と夢に合致した学校選択のサポートをすることが大事になってきます。なお、偏差値についての詳細も別の回で取り扱う予定です。

※偏差値については、まいくらすの合格推定ランク表でご確認ください。

(11) スポーツ・部活動

学校生活において、学業の次に大事な要素となるのがスポーツや部活動です。学校によって人気の部活動や環境は異なります。

※どの学校にどのような部活動があるかは成基学校ナビでご確認ください。

②国立

よく中学入試では『国私立中学』という風に、国立中学は私立と並び称される場合も多いですが、そもそも国立と私立とでは設置の根本が異なります。保護者の方の中には「安い学費で私立並みの先取り学習を行っている学校」とお思いの方がいらっしゃるかもしれませんが、実際には異なります。

それでは、国立の特性を示すポイント毎に詳しく見ていきましょう。

(1) 大学の研究機関という側面

国立の教育大学や教育学部の附属校は、大学の研究機関としての役割が強く、原則としてカリキュラム進度の先取りや進学に関しての特別措置は行われません。言い換えると、文部科学省の定めた指導要領を高品質の環境で実践した時にどういった成果が出るかを研究する機関と言えます。また、大学生の教育実習の場となることも多いようです。

(2) 併設高校

国立中学には併設の高校が有る学校と無い学校とがあります。

●滋賀大教育学部附属、奈良教育大附属・・・併設高校なし

この場合は、全員がどこかの高校を受験することになります。

●京都教育大学附属系2校（京教大附属京都・京教大附属桃山）、

大阪教育大学附属系3校（大教大附池田・大教大附平野・大教大附天王寺）

・・・併設高校はあるが進級にテストが必要

大教附系はほぼ全員が併設に進級していますが（もちろん外部受験を希望した生徒は除きます）、京教附系は附属高校に中学校2校の生徒全員を受け入れるだけの定員数が無いため、附属中学からの進級率は約60%程度となっています。また、京教附高校は附属2中学と学校所在地が異なることも注意が必要です。

●奈良女子大附属・・・中学・高校が一体となった中等教育学校

●神大附属2中学（神戸大学附属明石・神戸大学附属住吉）

・・・神大発達学部から移行期間。2015入試より神大附属中等教育学校として募集開始する予定。

(3) 募集人員

近畿にある国立中学は全て附属小学校を併設し、そこからの内部進級者によって中学からの募集定員は非常に少ない場合もあります。ちなみに、募集定員によって大きく2つのグループに分けると以下のようになります。

- ・ 外部募集定員80名以上・・・大教大附池田、大教大附天王寺、奈良女子大附属、奈良教育大附属
- ・ 外部募集定員80名未満・・・京教大附京都、京教大附桃山、大教大附平野、滋賀大教育学部附属

なお、募集定員中の男女比は明確に定められていて、志願者の状況次第では非常に難化する可能性がある不安定な入試となっています。

(4) 入試制度

国立中学の入試制度はもちろん各中学校によって異なりますが、国算理社4教科の得点力以外に運動能力検査や美術・音楽の芸術検査が実施される場合が多いです。なお、数年前までは実施されていた入試における抽選は近年では廃止もしくは行われていません。

(5) 通学区域

国立中学の入試においての最大の特徴は、出願可能な範囲（地域）が各中学によって指定（限定）されていることにあります。行政区（市町村区分）ごとに設定されているため、志願者の住所で確認することが必要になります。

③公立

ここで言う公立とは、無試験で入学できる地元の公立中学校のことではなく、'03年以降近畿圏でも徐々に広がりを見せる公立中高一貫校のことを指します。'03年より滋賀の県立中学3校（**守山・河瀬・水口東**）が開校したのに続いて、'04年には和歌山の難関校である**県立向陽**と京都の**市立西京・府立洛北**がそれぞれ附属中学を開校し、大きな話題を呼びました。

では、公立の特性を示すポイント毎に詳しく見ていきましょう。

(1) 府県ごとの取り組みの違い

公立の中高一貫は全国的に見てもようやく1期生が高校卒業を迎えた程度の非常に新しい体制で、運営される形態も各自治体によって千差万別です。

近畿で最も新しい公立中高一貫校である**大阪市立咲くやこの花中学校**は「ものづくり」を主としたテーマに置いた非常に珍しいタイプの学校です。一方、多くの公立校では公然・非公然にかかわらず大学合格をテーマに掲げています。例えるなら公立でありながら私立のシステムを運用している状態です。ところが、2009年にいきすぎた学力偏重の方向性に是正を求める答申が国から出されました。国・自治体と学校・保護者のニーズが必ずしも一致していない面も存在します。そのズレの原因の一つと言われているのが、各自治体での取り組み方の差です。つまり、公立中高一貫校を考える場合は、一括りにせず、その自治体もしくはその学校が何を目指して開校した学校なのかを正確にとらえることが重要になります。

(2) 入試制度

上記の府県ごとの違いを端的に表しているのが入試制度です。各学校の設立理念、教育目的に従って入試を課しており、地域によって様々な形を取っています。入試日程も私立の統一日に合わせる地域と、全く独自の日程で実施する地域があります。入試に関して全地域で共通している点は、私立のような国算理社の4教科入試を実施せずに「作文」「製作」「適性検査」などの名称で独自の入試を実施していることにあります。また、京都の公立中高一貫校に関しては、一部抽選によって合格者を決定する方式が取られています。

(3) 目的と今後

一部の学校を除いて、多くの公立中高一貫は「私立に対する公立の復権」を掲げて、大学合格実績で成功をおさめた私立の一貫教育システムを取り入れています。これにより、公立でありながら高校入試から解放され、体系的な学習ができるという利点があります。

雑誌等の発表でご存じの方が多いかと思いますが、今春は京都の**市立西京・府立洛北**が中高一貫の1期生が卒業する年度にあたり、大学合格実績を大きく伸ばしました。これから数年の公立中高一貫校大学実績の伸長度合いによっては、中学入試地図が大きく変わる可能性があります。

なお、同じ公立中高一貫校の中でも「連携型」と呼ばれる形式の学校は、特定の高校に進学を希望すれば学科試験が免除されます。ただし、中学校に入学するための入試がある訳ではありません。多くは限定された地域で中学校と高校との境目を低くし、カリキュラム的な無駄を省こうという取り組みの一環といえます。（例：大阪の**能勢町立東中学－能勢高校**）

*次回は、5月8日発信予定です。「中学入試基礎知識②～コースの現状・注意点・タイプ～」をお送りいたします。